

## 建設経済常任委員会行政視察委員長報告

- 1 視察期日 令和4年10月4日（火）から10月6日（木）
- 2 視察地 三重県菰野町、三重県いなべ市、愛知県岡崎市
- 3 出席委員 湯沢美恵、工藤日出夫、今関公美、諏訪善一良、  
島野和夫、黒澤健一、滝瀬光一

### 4 視察項目

〔菰野町〕 人口4万1,312人（令和4年11月1日現在）

- ・菰野町M a a S「おでかけこもの」について

〔いなべ市〕 人口4万2,691人（令和4年11月1日現在）

- ・いなべ市・農と福祉の連携プロジェクトについて

〔岡崎市〕 人口38万4,757人（令和4年11月1日現在）

- ・「乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画－QURUWA戦略－」について

はじめに、菰野町の視察概要から報告いたします。

#### 「菰野町M a a S「おでかけこもの」」について

菰野町では、M a a s「おでかけこもの」と銘打ち、すでにある複数の公共交通機関を「おでかけこもの」というアプリケーションを使って上手く連携させることで、町民のおでかけが便利になるよう、効率的かつ効果的な交通サービスを提供しています。M a a sとは、モビリティ・アズ・ア・サービスの頭文字をとった造語で、出発地から目的地までを、利用者にとって最適な経路を提示するとともに、複数の交通手段やその他サービスを一括して提供するシステムのことです。

菰野町には、近鉄湯の山線、三重交通路線バス、尾高タクシー、御在所ロ

ープウェイ、コミュニティバスという複数の交通手段がありますが、「おでかけこもの」を活用する以前は、目的地まで行くために公共交通機関ごとに運行情報を調べ、乗り継ぎの待ち時間や出発する時間を決めてから利用する必要がありましたが、この「おでかけこもの」を使うことにより、出発地と目的地を入力すれば瞬時に最適な交通経路や運行情報を複数提示してくれます。

システムの特徴としては、これまで行っていた電話予約に加え、ウェブでの事前予約受付、言語も日本語、英語、ポルトガル語、ハングル語、中国語の5か国語を実装しており、住民に限らず観光客にも使っていただけるように、システムの構築や普及に努めたほか、AIを使ったオンデマンド乗合交通の配車や予約もできるようにしていることです。

令和2年度においては、非接触での支払いが可能な「事前決済（キャッシュレス）機能」を追加したり、マスクを付けていても顔認証が可能で、認証すると保護者にメールが送られる「乗車時顔認証子どもみまもりシステム」を通学でよく使用するバスに設置しました。このほかにも、バスロケーションシステムを用いた車内の密度表示ができる機能やバスの現在地情報や車種が表示される機能を新たに追加し、コロナ禍において町民が安心して公共交通機関を利用し、おでかけできる環境を整備しています。

また、令和3年度においては「菰ビリティ」と題し、電動アシスト自転車、バイク、キックボードの予約受付や事前決済ができるように機能改修を行い、利用できる交通手段を増やしました。

利用者の特徴としては、65歳以上の高齢者の利用が多いことです。令和4年6月現在の利用状況は、1,162人で利用者の約80%が高齢者で、このうちの630人、約45%はウェブでの予約を利用しています。高齢者の利用が増えた要因としては、運賃割引をしたこと、広報紙やパンフレットで周知したこ

と、老人会やグラウンドゴルフ大会等の高齢者が集まるイベントでPRしたこと、町役場窓口で利用方法を丁寧に説明したことなどが挙げられます。

今後は、おでかけのきっかけになるように、イベント情報の発信機能を追加し、「おでかけこもの」のサービスと連携させることで更なる町民の利便性向上や地域のにぎわいづくりに取り組むとともに、高齢者だけでなく若年層へのアプローチも必要だと考えているとのことでした。

次に、いなべ市の視察概要について報告します。

### 「いなべ市・農と福祉の連携プロジェクト」について

いなべ市では、農と福祉の活性化プロジェクト事業として、心身の状況やその他の日常生活での事情により一般就労することが困難な方に対し、農業をとおして育てる喜びや達成感、生きがいを得る機会を提供し、障がいのある人もない人もお互いが認め合い、共に豊かな社会生活を営める環境づくりをするために、平成30年度に就労継続支援事業所篠立きのご園を開設しました。

この施設は、就労継続支援B型という制度の認定を受けた就労支援福祉施設で、障がいのある方が就労に向けた訓練をすることで、より社会生活になじんでいくための能力や技術の向上、維持を目的とした施設です。具体的には、定員20名に対し現時点での利用者が13名、指定管理者制度を活用し、就労の機会を一年中保てるよう椎茸栽培を行っています。椎茸栽培は椎茸栽培棟という施設内での作業なので、季節や天候に左右されず一定の作業が確保され、ハウス野菜ほど作業内容が細分化されないため定型化されやすく、障がいがある方でも比較的ゆっくりとマイペースに作業ができます。

篠立きのご園の特徴として、元々運営していた椎茸生産業務を福祉事業に応用しています。そのため、福祉事業者としては数少ない一般企業に近い事

業形態をとっていることから生産量を確保しやすく、売上げも年間1億円ほどあるため、全国的にみても作業工賃が高いというメリットがあります。また、障がいのある方だけでなく、ひきこもりや学校に行けない方、それらの事情により困っている保護者の方、病状により障がいと認定されない方なども受け入れていることも特徴の一つです。

そのほか、施設内の温度を一定に保つために年間をとおして空調を使用しており、特に夏場の空調費用がとてかかるため、今後は太陽光発電システムの導入を検討し、少しでも負担を減らしていきたいということです。しかし、冬になると1メートルを超える積雪があるため、発電効率や地域性の課題もあり難しいところがありますが、知恵を絞って効率的な事業運営ができるよう、また、利用者がやりがいをもって過ごしやすい場所になるよう努力していきたいとのことでした。

次に、**岡崎市**の視察概要について報告します。

### 「乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画－QURUWA戦略－」について

岡崎市は、乙川周辺のリバーフロント地区におけるまちづくりを進める中で、行政だけではなく民間事業者やその地域に住む市民も巻き込み、相互に連携しながら地域が抱える多くの課題を解決するとともに、「これからの100年を暮らすまち、良質な都市空間を楽しむ日常、暮らしやすいまち」の創出を図り、良質な公共サービスを提供しています。

令和3年4月に岡崎市第7次総合計画において、「公民連携による成長戦略の推進」と基本指針に位置付けた上でブランディングを始め、「QURUWA戦略」と題して、東岡崎駅、乙川河川緑地、桜城橋、中央緑道、籠田公園、図書館交流プラザりぶら、岡崎公園など、徒歩5分圏内の公共空間の各

拠点を結ぶ主要回遊動線を上手く活用した戦略で、その動線がかつての岡崎城跡の「総曲輪（そうぐるわ）」の一部と重なること、また、この主要回遊動線がアルファベットの「Q」の字に見えることから「QURUWA」と命名したそうです。

そして、各拠点や拠点間動線上において、7つの公民連携プロジェクトを実施することが人の回遊を誘導し、その波及効果としてまちの活性化を図り、エリア全体の価値や暮らしの質を向上させ、しいては、エリア外周辺への波及効果もねらいとする戦略です。

特に珍しい取組としては、PPPを活用した公園運営事業があり、公園人道橋の桜城橋橋上広場とその橋詰広場の約2,800平方メートルの公園用地を活用し、さらにはPark-PFIによる民間活力を導入することで、休憩所、飲食店などを一体的に整備、運営する公民連携プロジェクトです。

実際に現地に足を運び、広大な橋上であるにもかかわらず車道としての利用ではなく、全てを公園広場（人道橋）として利用している様子や橋上に設置された貸店舗施設の具体的な利用方法、夏祭りや健康体操、小学生を対象とした橋上教室等多種多様な活用事例を紹介していただきました。

財政面としては、Park-PFIを活用していることから飲食店、売店等から生じた収益や民間資金を活用して、その周辺の園路や広場を維持管理できるといったメリットがある一方で、人が集まる公共空間をつくるにはある程度資金を投じないと十分な成果が得られないという側面もあるため、当初の路面工事や橋梁工事、公園整備等には大きな事業費をかけました。結果的にいえば国土交通省の「かわまちづくり支援制度」を活用し、交付金として2分の1の補助金を6年間にわたって満額受けることができましたが、その中でハード整備だけではなくソフト整備もセットで事業化したこと、そして川を使っていかにまちと連携して良好な公共空間を形成できるかを国に説

明できたことが重要なポイントだったとのことでした。

今後の課題としては、QURUWA戦略が始まってから4年半が経過しているため7つのエリアビジョンを更新することや質の高い民間投資を誘導すること、そして、今よりもさらにウォークブルに資する回遊支援策の検討をしており、サイクルシェアの強化や新しいモビリティの導入、フリンジパーキングの導入をとおして安心安全で歩きやすいウォークブルなまちづくりの実現を目指していきたいとのことでした。

以上が視察の概要ですが、今後、本市において参考となる事項については、御検討いただきますよう要望し、報告といたします。

なお、詳しい資料は、議長への視察報告書に添付してありますので、必要な方は御覧いただきたいと思います。

令和4年11月29日

建設経済常任委員会  
委員長 滝瀬 光一

北本市議会議長 工藤 日出夫 様